

# 鬼門塚

大堀を歩く

大堀区(飯高地区)は市の北西部に位置し、多古町に接しています。県道74号多古笹

本線を多古方面に向かい「大堀入口」の看板を左に入り150mほど進んだところに「鬼門塚」と呼ばれる小さな塚があり、石塔(廿三夜塔)と石碑が立っています。

石碑は高さ50cm・幅70cmほどで、碑表の中央に「南無妙法蓮華経」と刻まれる題目塔といわれるものです。筆者が40年ほど前に調べた際、地区

のお年寄りからその由来を聞きました。

昔、この塚を掘ったところ「南無妙法蓮華経」と書かれた小石が出てきて、驚いた村人は慌てて埋め戻し、「鬼門塚」と呼んでおまつりしたそうです。

碑に刻まれた文字を読むと、1769年に大堀村の久右衛門が石の施主となり、先祖と両親と思われる人にお経をたくさん上げ供養のため立てたこと、そして妙正寺住職の名も刻まれています。

鬼門は北東の方位をさす言葉でもあり、「忌み嫌われる」方角でもあることから神仏がまつられることがあります。近くに中世の大堀城跡があり、その鬼門だったとも考えられます。

城跡のある台地には千葉氏が守護神とした妙見をまつる星宮神社と日蓮宗・賢徳寺があります。1575年に同寺を中心に僧侶5人と那須や秋山姓の農民31人の宗教活動が知られています。

畑の中の道をさらに進み集落へ下る坂の途中に墓地があり、ここが日蓮宗・妙正寺の建物があった場所です。同寺は江戸時代に鬼門塚のあたりからこの場所に移ったとされます。

最近の調査報告によると、日蓮宗系で信仰された癩瘡神が「妙正大明神」とされ、寺名の「妙正」もそれに関係するのではないかと考えられます。

昔から流行病のひとつとされた天然痘(痘瘡)は、医療が進歩していなかった時代、神の名が刻まれた石塔に祈るほかなかったのでしょうか。

旧八日市場市を調べた結果、1750年ごろから「痘瘡神」が10基、「妙正大明神」が3基まつられました。何気なく道ばたに立つ石碑にも秘められた歴史があったのです。

(元 市職員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

鬼門塚に立つ題目塔



えられます。